ヤマハOB連合会報
第34号
●発行　浜松市中沢町10-1
TEL（053）460-1604
ヤマハ株式会社・ヤマハOB連合会
●編集　人事部サポートセンター厚生
■会員数2,867人（平成18年4月現在）

ゆるぎない連合会の歩み 心豊かなふるさと「ヤマハ村」づくりを

ヤマハOB連合会会長　武田義一（よしかず）

第19回ヤマハOB会・全国懇親会をこつま恋において開催できましたことを大変うれしく思います。今回も330人余りの皆様のご出席を頂き誠にありがとうございます。

また、ご多用のところ会社並びに労働組合からは、岸田勝彦会長、伊藤修二社長、高井正人中央執行委員長ほか大勢の方々のご参加を賜わり、厚く御礼申し上げます。

このところ天候不順の毎日でしたが、本日はつま恋を渡る風も爽やかな気持ちのよい好天に恵まれました。このよき日、同郷の古き仲間の皆様共々「心豊かなふるさとヤマハ村」での再会を、大いに喜びあえるひとときでありますことを、心より念じております。

顧れば平成14年6月、第15回ヤマハOB連合会の総会において、「世の人々の心の汚染に抗して、心豊かなふるさとヤマハ村づくり」を指針として諸活動を行ってまいりましたが、ここに4カ年が経過し、昨年度は新しい規約の基で初の役員の改選が行われました。

ヤマハOB連合会は、現在東日本・静岡・中部・関西・西日本と全国5ブロックに区分され、それぞれ代表役員が選出され「代表者会議」の決議によって運営されるようになりました。

各ブロックへの剰余金の配分など難しい問題も代表役員諸氏のご理解のもとに無事クリアー出来、各地区の自主独立を目指す活動は、準備期（01年―02年）、激動期（03年―04年）、調和・定着期（05年―06年）を経て、今日に至っております。

新しい期に当たりそれぞれOB・OG会員一人ひとりに求められているものは何か。全役員の方々を核として、会員の皆様のよりいっそうのご理解とご支援をお願いいたします。

（全国懇親会あいさつ要旨）

第5回「趣味の作品展」盛況に 今回も2、100人余りが来場

第5回「趣味の作品展」は、2月21日から26日まで、浜松市中部公民館（クリエート浜松）で開催されました。今回も90人の会員（一部配偶者の方もあり）から、絵画・書・工芸・写真などさまざまなジャンルに200点余の作品が寄せられました。

応募点数、作品の水準も回を重ねるごとにレベルアップ。大変好評で来場者のアンケートでも「素晴らしい作品の数々にびっくり。毎年開催してほしい」という声などが多数寄せられました。次回（第6回）も、クリエート浜松で開催の予定です。同好の皆さんの多数のご応募を期待しております。

会社、労組をはじめヤマハ関連会社各位OB会員の皆さん方の温かなご支援、ご協力まことにありがとうございました。

▶ひときわ目を引く作品展を告げる立看板（クリエート浜松で）

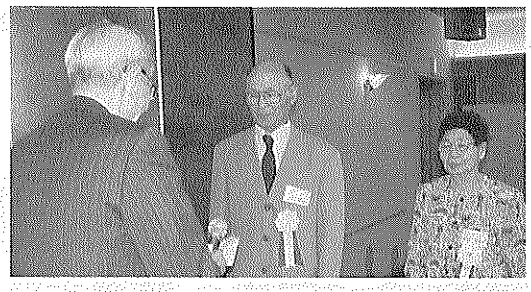
▲あいにくの天候にもかかわらず多くの人たちが鑑賞に訪れました（ギャラリー31会場で）

第19回ヤマハOB会全国懇親会開催 初夏の陽光まぶしくつま恋に330人余集う

第19回ヤマハOB会全国懇親会は、久し振りに晴れ上がったつま恋の会場に、会員330人余りが集い、楽しい歓談のひとときを過ごしました。

（関連記事　次ページへ）

長寿祝対象者			
	米寿	（88歳）	15人
	喜寿	（77歳）	65人
	古希	（70歳）	135人


▶代表で米寿（88歳）のお祝いを受ける鈴木隆治さん（第24ブロック・左）早見すみ子さん（第4ブロック）

▲前半、長寿祝の会場を埋めた出席者の皆さん。初参加の女性の方々が目立ちました（つま恋SMCで）

第19期 第1回代表者会議 本社八幡事務所で開催

ヤマハOB連合会の代表者会議は、5月20日、ヤマハ本社八幡事務所（人事会議室）で開催されました。来賓として会社側から細井正人人事部長、労組からは渡辺英樹書記長が出席。東日本・静岡・中部・関西・西日本各地区代表の皆さんにより、第18期連合会事業報告、同決算・監査報告を了承。各地区の活動報告について、第19期連合会予算計画などについて2時間にわたり真剣な話し合いが行われました。

▲各地区の特色を生かした活動報告に耳を傾ける代表者会議の皆さん（本社八幡事務所で）

つま恋の全国懇親会（全懇）

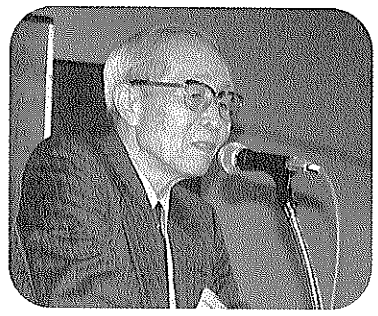
年忘れ、にぎやかに肩たたき楽しく

長寿者のみなさんのお祝いがすんで、ドアーの向うはお待ちかねの懇親会会場。

忘れかけた仲間の顔を見つけて、にぎやかに楽しく肩をたたいて再会の喜びを語り合う。ブロックごとに区分されたテーブルでは、つま恋料理に舌つづみ。歓談の輪は午後のひととき3時間余り、会場全体に広がりました。

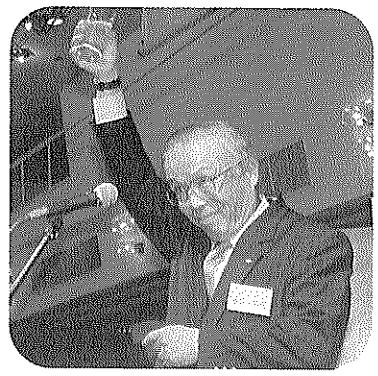
▲労館の建設をはじめ今後ともＯＢの皆様のご支援をと高井正人中央執行委員長

▲ヤマハの新業務について抱負を述べる伊藤修二社長



▲「ヤマハ村」での再会を大いに歓び合いたいと語る武田義一会長

旬の素材を使って調理されたつま恋料理に舌つづみ、ドリンクコーナー、茶そばの屋台も好評

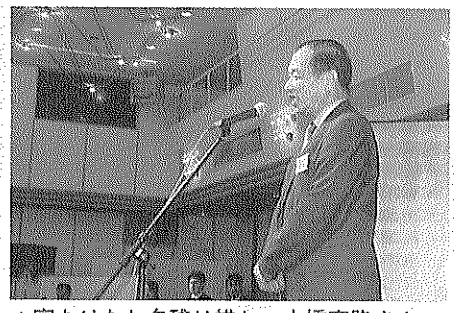


▲皆様のご健勝とヤマハ野球部の活躍を期して乾杯！　岸田勝彦会長

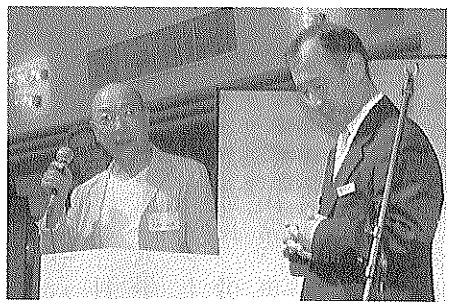
▲相川道雄さん（第６ブロック／手前エレクトーン）石田喜克さん（第６ブロック／ハーモニカ）による演奏は会場を大いにわかせた

▲こちらは伊藤社長を取り囲んだ静岡地区ＯＧの皆さん

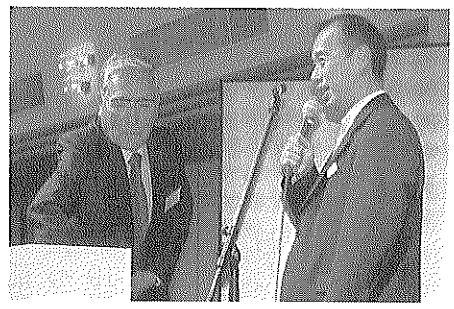
▲関東・関西など全国各地区ＯＢ会代表者の皆さんもテーブルを囲んで歓談



▲宴たけなわ名残り惜しい中橋寛隆さん（第５ブロック）中締めのあいさつ

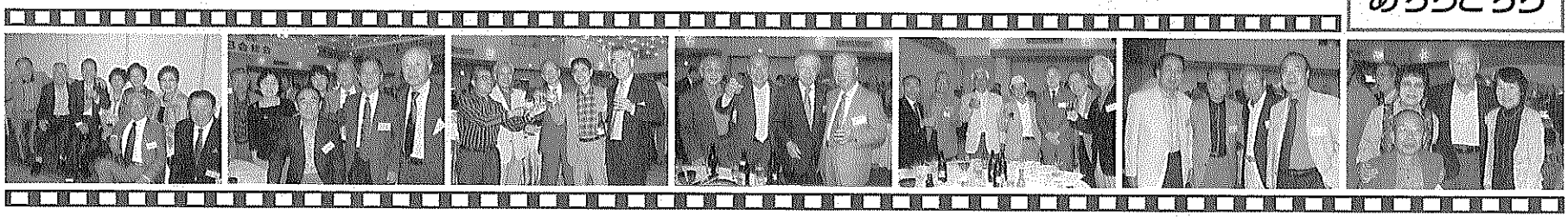


▲見事特等に当った大橋義司さん（第28ブロック・写真左）マイクで一言「やったー」



▲つま恋のお土産が当たるお楽しみ抽せん会（カードを引く第８ブロック・加藤照仁さん）

会場あちらこちら



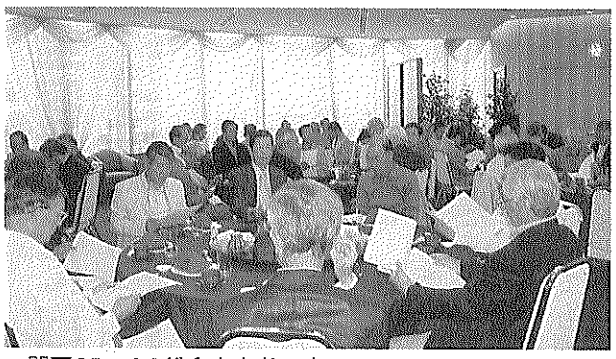
東西各ブロックで総会を開催

平成18年度・東日本（東京）のブロック総会は、5月17日、ホテルアジュール竹芝（東京・港区）で、関西ヤマハOB・OG会は5月28日、ガーデンシティクラブ大阪（大阪・梅田）で開催されました。

両総会とも総会後の懇親会では、シニアアンサンブルのメンバーによる見事な演奏が披露され、会場は大いに盛り上がり楽しい歓談のひとときを過ごしました。

▲松本洋二さん（82歳）の指揮するシニアアンサンブル同好会（20人）の演奏曲目は、クラシックから演歌までレパートリーは多彩

▲東日本総会出席者129人（ホテルアジュール竹芝で）



▲関西OB・OG総会出席者58人
（ガーデンシティクラブ大阪で）

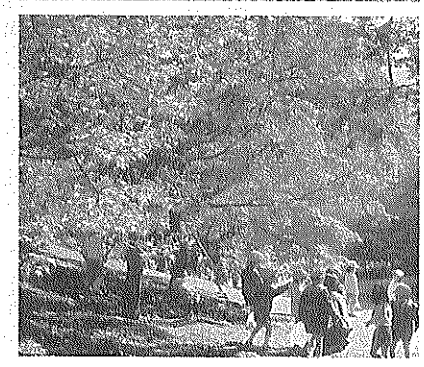
高戸隆一郎さんをリーダーに楽器演奏を楽しむ関西シニアアンサンブルの皆さん

趣味の作品展から「あの時の作品」

遠足

高野　昌美（関西）

私はいつも風景写真しか撮影しません。但し、風景写真の中に人、鳥、虫、雲等、何かを入れる事にしています。この写真は2点とも六甲山中にある森林植物園で撮影しました。私はこの植物園が好きで年に3～4回行きます。昨秋に秋の色を求めて撮影に行ったのですが、たまたまウィークディで子供達が大勢遠足に来て遊んでいました。そこでいつも写している風景ではなく、子供達をメインに秋の色を表現する事にしました。子供達の可愛さと秋の色を少しでも感じていただければ幸いです。



漁港

野村　節弥（東日本）

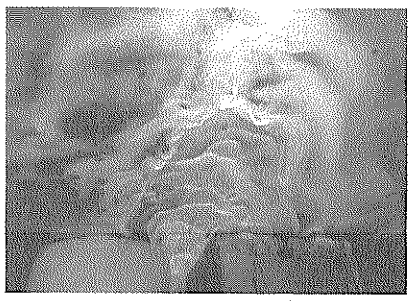
この作品は千葉県勝浦漁港で撮ったもので、約2年間10回ほど訪れて完成した。

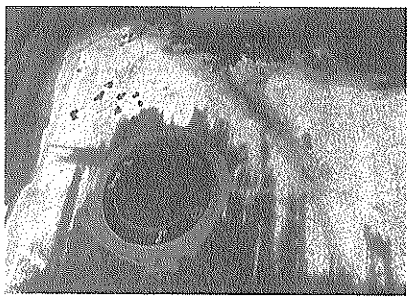
勤務地である東京町田市で写真を学び始めて10年、楽しい写真仲間と隔月一回作品提出会と撮影会で研鑽を重ねている。

私が興味を持つ被写体は美しい風景、景色といったものより人間の喜び、悲しみ、苦しみなど表わしたものが多く、ファインダーから覗く被写体の人生を出来るだけ表現したいと心掛けている。この作品は人物こそ撮ってはいないが漁港の生活が匂うように工夫した。運よく一昨年の神奈川県美術展写真部門で特選の賞をいただいた。その時講評をいただいたプロの写真家が次のように表現してくれた。『野村氏の作品「漁港」（3枚目）は汚染に悩む漁港の現状を力強い映像効果でシンボリックに撮られた作品である』…と。

これからも趣味の写真を通して多くの仲間と楽しい人生を過ごせるように努力していきたい。

第39回神奈川県美術展　写真部門「特選」





竹細工

山本　昇志（第9ブロック）

私が竹細工を始めたきっかけは孫が昆虫好きで色々な虫に興味を持っていたことでした。ある日、竹で作ったトンボを土産店で売っているのを見て、これぐらいなら作れるのではないかと思い、昆虫図鑑を参考に作製。一つ二つと作る度に孫の喜ぶ顔が励みとなり、また、友人から「ブローチやネックレスなども作っては」と勧められ、挑戦したのがこれらの作品です。

▲伊藤社長も感心して見入っていた山本さんの竹細工　（クリエート浜松で）

アクセスお待ちしてます

東日本ヤマハOB会

関西、中部についで東日本にもこのほどホームページが開設されました。

アクセス方法　インターネット　エクスプローラーから

http:obyamaha-tky.web.infoseek.co.jp/

と入力し、Enterキーを押すと接続します。

中部ヤマハOB会

http://www3.starcat.ne.jp/~mzhtko/index.html

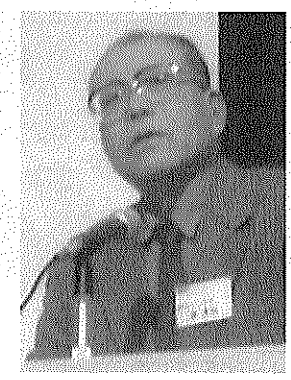
関西ヤマハOB・OG会

http://yamahak.zive.net

特別記事

被爆米兵の全容解明に取り組む

森　重昭さん（西日本ヤマハOB会）



▲各地の公演会で活動のようすを語る森さん

「人類の負の遺産」と呼ばれ、世界遺産にも登録されている広島の原爆ドーム。その街で自らも被爆した歴史研究家の森　重昭さん（西日本ヤマハOB会）は、もう20年余りも被爆死した米兵捕虜の全容解明に取り組んでいる。地道な調査活動は、戦後60年余経たいまも続けられている。

調査の誓い立てて

8歳の時、爆心から2.5キロの橋の上で級友らと被爆した森さんは、川の中に吹き飛ばされ、その後3日間小学校裏の防空ごうに避難。やっとのことで焼野原となった我が家のある場所にたどりついた。恐怖と悲しみに包まれた体験は、「忌わしい戦争の悲劇は二度と繰り返すまい」という願いに変わっていった。

憎っき奴は米国だが、長じて「記録にはなくても戦争を経験した者には、誰にもドラマがある」との思いに突き動かされ、戦時中、とらわれの身となった広島で、人知れず被爆して死んでいった名もなき米兵たちのことを知り、この人たちに光を当てようと決心した。

75年ごろから、市内の古老を訪ねては戦争の話を聞いていたが、90年末に読んだ「広島を訪れた米兵捕虜の娘夫婦が、何の収穫もなく帰った」との新聞記事が、被爆死米兵を調べるきっかけになった。捕虜名簿は、77年外務省外交史料館で発見されたが、調査は遅々として進んでいなかった。「これはもう、自分がやらなくてはいけない」と森さんは自らに言いきかせ誓った。

歳月に埋もれぬうちに

調査は生きて帰国した爆撃機「ロンサムレディ」号の元機長捜しから開始した。深夜、米国に国際電話をかけて番号案内で同名の人を尋ね、3年後、ついに居所を突き止めた。元機長は、「乗員は家族同然の存在だった」と協力的で、数人の遺族が判明した。

その中にジェームス・ライアン少尉の遺族がいた。'96年に少尉の兄から関連書類の写しが届いたが、死亡通知書が含まれていると知ったのは、3年後だった。

「大変なものだと直感し、手が震えた。多くの遺族が息子や夫の最期を懸命になって、政府に問い合わせたようだが、通知が来た遺族も、来なかった遺族もあったということを知った」と、森さんは当時を振り返る。

「死んだ米兵捕虜は、敵味方関係なく殺す原爆の犠牲の象徴ではないか。歳月に埋もれて風化しないうちに、しっかり記録しておかなくては…」と、文字通り孤軍奮闘が続いている。

駐日米大使から感謝状

敗戦からすでに60年余を経て、なお続けられている森さんの活動は、ときに被爆直後に広島市内の相生橋付近に縛られていた米兵の目撃者を捜し証言を得て、知人の協力で絵に描いて完成した作品は、原爆資料館に寄贈。また米軍爆撃機の元パイロットで、戦時中は旧日本軍の捕虜になった米兵の回想録を3年がかりで翻訳出版（NHK出版が発行）。捕虜収容所跡地には慰霊の銘板を設置するなど、こうした森さんの活動は米国でも広く知られるところとなった。03年6月、日米友好に功績があったとして、ベーカー駐日米大使（当時）から感謝状が贈られた。それはA4判1枚のささやかなものだが、同感謝状には英文で「米国と日本の固い絆は、貴殿のような人々の純粋な気持ちと思いやりのある行動の上に成り立っています」などと記されている。それは森さんの活動をたたえ、長年にわたる地道な取り組みが評価された、確かな証しに外ならない。

42 WORLD NEWS　THE TIMES FRIDAY MAY 13 2005

Family hunt to honour only Briton killed by atom bomb

From Richard Lloyd Parry in Yokohama

A JAPANESE historian is trying to trace the relatives of a British servicemen who was one of the first Allied prisoners of war to be killed by American bombs dropped on Hiroshima and Nagasaki in August 1945.

Shigeaki Mori, who himself lived through the bombing of Hiroshima as a schoolboy, is trying to find living relatives of Ronald Francis Stone, a Royal Air Force sergeant who was killed when the second atomic bomb was dropped on Nagasaki three days later.

He hopes to pass the record of Corporal Stone's living relatives to have his name added to the list of names kept in the Peace Park at Nagasaki. But although the NAT keeps correct details of next of kin, protection of privacy rules prevent it from giving them to outsiders.

Time is running out if the search is to be completed in time for the services to mark the 60th anniversary of the Nagasaki bombing on August 9. Only two Japanese have been found so far, and it is not mathematically impossible that some, though very unlikely, members of the Japanese military, those who died in war prison, may be respected. Yet the Times is the first to hear of Corporal Stone's grave in the Commonwealth War Cemetery in Yokohama. It is important to let the survivors of veterans, not of suspects, for their sacrifice.

Mr Mori, a retired piano salesman, who spent 40 years researching the stories of foreign prisoners of war in Hiroshima and Nagasaki. He has succeeded in finding the names of eight American POWs killed in the first atomic bombings. He said: "At least three families were survivors and at least two more had very close relatives." Mr Mori said: "All of them, at the moment, long left grief, despite for Japanese and the concern of Japan, even though their loved ones were killed by their own side."

The few known details of Corporal Stone's life, revealed to Mr Mori by the Air Ministry in Tokyo, are those of a boy from Kent, who was the youngest of six children. Stone, who was a member of the Royal Air Force, was an air gunner at the RAF base in Kalkapur on the island of Java and was captured in Britain in present-day Jakarta — in 1942. In 1944, he was sent by sea to Japan on the troop transports known as "hell ships".

On June 10, 1944, he was reported after the sinking of his ship, almost certainly by an American submarine off Taiwan. Stone, the southernmost of the Japanese islands, and in August 1945 found himself working in the Mitsubishi company in the centre of Nagasaki. The atomic bomb, dropped by an American B29, exploded a few hundred metres away, and Corporal Stone was crushed to death by falling masonry.

The survivors eventually interred in Hodogaya, a beautiful garden cemetery on a hill above the busy port of Yokohama, where 1,800 Commonwealth servicemen are buried, including more than 1,000 from the sinking of the Prince of Wales and Repulse. Stone's grave is in Hodogaya, North London. After his death he was sent to his mother at an address in Bowes Park in London to be cremated. Stone was one more now claimed over the Stone family.

Some 140,000 people died in Hiroshima and 70,000 in Nagasaki. Everyone who was in the two cities at the time of the explosion, including Japan as the world, are regarded as victims of the bombs and entitled to have their current status as the survivors of the atomic bombs. The survivors number 250,000 for Hiroshima and 125,000 for Nagasaki.

The few surviving the list of the names of the Hiroshima Peace Park. Mr Mori said: "Time is pressing. For the victims will not be forgotten."

Mr Mori, who is walking to attend with two schoolmates when the first atomic bomb exploded over Hiroshima at 8.15am on August 6, 1945. His transparent skin died, and he has been sticken with poor health ever since.

"Because of the love and grief felt by the atomic bombs, the war ended," Mr Mori said yesterday. "I want to get in touch with the temporary families to bring comfort to them and to the souls of those who died."

■ For information about the Nagasaki Peace Park, please e-mail to foreignnews@thetimes.co.uk or write to Foreign Desk, The Times, 1 Pennington Street, London E98 1TT.

Nagasaki Mori prays at Ronald Stone's grave in the Commonwealth War Cemetery at Yokohama

NUCLEAR DAWN

■ On August 9, 1945, three days after the devastation of Hiroshima, the United States dropped a second atomic bomb on Nagasaki

■ The initial target was the city of Kokura, but because of cloud cover the pilot was forced to change his target to the alternate city of Nagasaki

■ The device was released by the B29 bomber Bock's Car, piloted by Major Charles Sweeney

■ The bomb was nicknamed "Fat Man" it was twice as weighty as the Hiroshima bomb. "Little Boy", it was 3m long and weighed 4,536kg

■ By the end of 1945, 70,000 of Nagasaki's 240,000 residents had died as a result of the bombs. Some suffered a form of cancer, many more died as a result of fallout from the explosion

▶国内はもとよりザ・タイムス（英）など内外メディアの関心も高い

とっておき

＝懐かしの建物＝

▲日本楽器北海道支店

戦災を免れた昭和24年4月に撮影されたものです。ウインドーにはわずかにハーモニカが陳列されているだけ。世相はまだ混沌とした時代。国鉄・下山総裁、轢死体で発見（24年7月）。無人電車が暴走した三鷹事件（同）。東北線の列車が転覆された松川事件（同、8月）など不可解な事件が続発しました。

懐かしい昔のヤマハの写真がお手元にありましたら、簡単なコメントを付けてお貸しください。

未掲載のおわび

紙面のつごうにより一部会報原稿が掲載できないものがありました。発行日のタイミングの問題もあり、次号への掲載もできない措置につきおわびいたします。ご容赦下さい。

編集室だより

●雨の多い今年、特に5月の連休以降は梅雨の走りか晴れることなしの日々。ところが「全懇の日」はうって変わっての好天気で新緑したたるつま恋は、まさに我がヤマハOB・OGの日となりました。お天とうさん、よく見てくれてるわ。

●皆さん、この方々が「古来稀にみるお顔に見えますか」とは、長寿祝いの席での武田会長のジョーク。まったくそうは見えない。みんな5つ6つはお若い。お互いにまたその先までず～っと元気な日々を送りましょう。いい便り待ってます。〈H〉